

平成 28 年度高山工業高等学校 第 3 回学校活性化連絡協議会 議事要旨

日 時	平成 29 年 1 月 24 日 (火) 13:30～15:30
場 所	高山工業高校 会議室
出席者 (敬称略、 委員名は 50 音順)	(委 員) 川上 哲也 県議会議員 北村 齊 高山商工会議所会頭 (日進木工(株) 代表取締役) 堰 美鶴 高山工業高等学校育友会会長 高殿 尚 県議会議員 中村 健史 高山市教育委員会教育長 林 俊宏 高山工業高等学校後援会会長 (株林工務店 代表取締役) 本母 雅博 飛騨木工連合会代表理事 (飛騨産業(株) 専務取締役) (代理出席) (高校側) 藤田 正昭 校長 堀 修 教頭 谷口 淳 事務長 岩島 義則 教務主任 門前 雅人 進路指導主事 室谷 伸治 工業部長・建築インテリア科主任 新家 邦男 電気科主任 川上 登 電子機械科主任 境 信之 事務局・機械科主任
議事概要	2・3 年生の数学、英語等の授業見学を実施した後、技能五輪全国大会で金賞を受賞した卒業生が、在校生に対して報告会を実施した (12 月 22 日) ことを説明 1 本年度の本校の活動について ・ 技能五輪全国大会はレベルの高い大会であり、この大会で頑張れることは素晴らしい。高校で培った日頃の様々な活動は高山地域で役立っており、高山工業高校がこの地でその名前を残して頑張っていただけのように尽力したい。 ・ 技能五輪の予選を高山市で開催して、市民の皆さんにもものづくりの素晴らしさを広く知ってもらいたい。できれば国際大会を岐阜県で開催できるくらいのイメージで取り組み、ものづくり人材の確保にもつながると考える。 ・ 高山工業高校が本年度、高山市制施行 80 周年記念の第 6 回小水力発電アイデアコンテストに参加しているので、地域に PR していきたい。

議事概要	2 今後の高校活性化の具体的な方策等について ・ 工業高校の入口と出口が最大の関心事である。また、「工業高校を卒業して地元に戻って頑張りたい。」という生徒を確保する、県全体の工業高校の課題と、飛騨地域に特有の課題、そして、高校の在り方について、より一層検討する必要がある。 ・ 一流の職人になれば、70～80歳まで働ける。いわゆる“スター戦略”として、一流企業等で活躍している高山工業高校出身者を招き、中学生やその保護者に「将来のことを考えても、工業高校は魅力的だ。」とアピールすべきである。 ・ 小中学生の保護者に工業高校の魅力をPRする方法として、高山工業高校を卒業した優秀な職人や有名な卒業生を小中学校のPTA総会等に招いて、講演等を行っていただくことが考えられる。 ・ 高山市としては、子どもたちを小中高と一貫して育てていきたい。小中学生が高山工業高校に憧れをもってくれるように、小中学生やその保護者に積極的に高校を見せることが必要である。 ・ 高山市内の高校が協力して、合同で高校の魅力を発信できるサテライトキャンパスのような施設を運営し、小中学生やその保護者が、施設の中で市内の高校の取組を見て、触れて、感動するような方法について、高山工業高校がリーダーシップをとって考えてもらえるとありがたい。 ・ 手に職を持てば一生の宝になることを、親が理解することも必要である。 3 少子化に対応した地域との連携活動等について ・ 小中学生やその保護者に、地元企業の魅力を発信することが大切だ。親子で参加しものづくりを体験できる仕組みを、高山市やいろいろな業界をあげて作ることが望ましい。また、飛騨の魅力について県外の人と県内の人がお互いに話し合いができる場を設けて、県外にはない飛騨の魅力を実感できるようにすることが大切である。 ・ 岐阜県立木工芸術スクールと高山工業高校の活性化策として、両者を統合するという考え方も有効ではないか。 ・ ふるさと教育として、市内の高校が協力して活動する場が必要である。高山市では来年度、大学生参加のサテライトキャンパスを予定している。ものづくり教室には高山工業高校も、ぜひ参加していただきたい。
------	--